

8.2 生物・生態系

8.2.1 調査事項

調査事項は、表 8.2-1 に示すとおりである。

表8.2-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 ・陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 ・生育・生息環境の変化の内容及びその程度 ・生態系の変化の内容及びその程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全する計画としている。 ・計画地内には、既設の緑地と合わせて約9,970m²の新たな緑地を整備する計画としている。 ・地上部緑化として、高木、中木等を植栽する。 ・十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。 ・タンキリマメの工事後の生育状況については、フォローアップ調査で確認する。 ・植栽樹種は「植栽時における在来種選定ガイドライン」(平成26年5月 東京都環境局)等を参考にするとともに、隣接する葛西臨海公園との連続性に配慮して選定する。

8.2.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.2.3 調査手法

調査手法は、表 8.2-2 に示すとおりである。

表8.2-2 調査手法(東京2020大会の開催後)

調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 ・陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 ・生育・生息環境の変化の内容及びその程度 ・生態系の変化の内容及びその程度 	
調査時点	東京2020大会の開催後(2021年度)とした。	
調査期間	予測した事項	施設竣工後の2021年7月及び10月とした。
	予測条件の状況	施設竣工後の2021年7月及び10月とした。
	ミティゲーションの実施状況	施設竣工後の2021年7月及び10月とした。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況及び緑化計画図の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び緑化計画図の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び緑化計画図の整理による方法とした。

8.2.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項及び予測条件の条件

ア. 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内のセイタカアワダチソウ群落や、ヨシ群落等の草本等の植物の生育地が改変されたが、これらの植生は、埋立後の造成地及び排水側溝に自然繁茂したものであり、計画地周辺の植物相及び植物群落の改変の程度は小さかった。

事業の実施に当たっては、計画地南側及び西側の外周に生育するクロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全した。注目される植物のタンキリマメの生育箇所は、計画地南側のクロマツ植林の林縁部であり、事業実施後も生育が確認された。また、既設の緑地と合わせて13,278m²の範囲に芝生のほか高木、中木、低木を植栽する計画である。これにより、事業の実施により新たな植物相及び植物群落が創出される。

イ. 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、草地を主たる生息地とする鳥類のヒバリ、バツタ目、コウチュウ目、ハエ目等の昆虫類の生息地が改変された。ただし、事業の実施に当たっては、既設の緑地と合わせて13,278m²の範囲に地上部緑化を行う計画である。これにより、確認された鳥類、昆虫類等の動物相及び動物群集は維持され、生息地が創出される。なお、鳥類の注目される種は、計画地と隣接した葛西臨海公園内の植樹帯や草地、海岸等を主な生息環境としており、公園内は事業による改変はなかったことから、周辺を含めた動物相及び動物群集は維持され、計画地内に新たに創出される緑地についても生息地として利用が可能となる。

ウ. 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の動植物の生育・生息環境となる草地環境、土壌が改変されたが、事業の実施に当たっては、計画地南側及び西側の外周に生育するクロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全した。また、既設の緑地と合わせて13,278m²の範囲に芝生のほか高木、中木、低木を植栽する計画である。これにより、移動性の低い動物相及び動物群集(地上徘徊性の昆虫やクモ類等)の多様な動植物の生育・生息環境が創出される。

エ. 生態系の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の草地環境、土壌が改変され、一部の既存樹木が伐採され、生態系を構成する陸上植物、陸上動物が相互に係わる生育・生息環境が改変された。ただし、事業の実施に当たっては、計画地南側及び西側の外周に生育するクロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全した。また、既設の緑地と合わせて13,278m²の範囲に芝生のほか高木、中木、低木を植栽する計画である。これにより、多様な生態系が創出されると考える。


2) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.2-3(1)及び(2)に示すとおりである。なお、生物・生態系に関する問合せはなかった。

表8.2-3(1) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション 実施状況	・クロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全する計画としている。
計画地の南側及び西側のクロマツ植林は工事による影響を回避し既存緑地として保全した。	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>計画地南側のクロマツの保存</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>計画地西側のクロマツの保存</p> </div> </div>	
ミティゲーション 実施状況	・計画地内には、既設の緑地と合わせて約 9,970m ² の緑地を整備する計画としている。
既設の緑地と合わせて 13,278m ² の範囲に芝生のほか高木、中木等を植栽し、動植物の生育・生息環境を創出する。	
<div style="text-align: center;">  <p>競技コース内に整備した芝生</p> </div>	

表8.2-3(2) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	・地上部緑化として、高木、中木等を植栽する。
実施状況	地上部緑化として、高木約40本、中木約600本、低木約4,000本を植栽する。植栽樹種は、隣接する葛西臨海公園との連続性も考慮し、ヤマモモ、オオシマザクラ、ナツツバキ、サルスベリ、ヤマボウシ、シャリンバイ、ジンチョウゲ、ハマヒサカキ等を選定した。
ミティゲーション	・十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。
実施状況	地上部緑化においては、樹木等が良好に生育するよう十分な厚みの植栽基盤を確保する。
ミティゲーション	・タンキリマメの工事後の生育状況については、フォローアップ調査で確認する。
実施状況	フォローアップ調査により、計画地南側のクロマツ植林の林縁部においてタンキリマメの生育を確認した。
	
クロマツ植林の林縁部のタンキリマメ	
ミティゲーション	・植栽樹種は「植栽時における在来種選定ガイドライン」(平成26年5月 東京都環境局)等を参考にするとともに、隣接する葛西臨海公園との連続性に配慮して選定する。
実施状況	植栽樹種は、「植栽時における在来種選定ガイドライン」(平成26年5月 東京都環境局)等を参考にするとともに、隣接する葛西臨海公園との連続性も考慮し、ヤマモモ、オオシマザクラ、ナツツバキ、サルスベリ、ヤマボウシ、シャリンバイ、ジンチョウゲ、ハマヒサカキ等を選定した。

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内のセイタカアワダチソウ群落や、ヨシ群落等の草本等の植物の生育地が改変されたが、これらの植生は、埋立後の造成地及び排水側溝に自然繁茂したものであり、計画地周辺の植物相及び植物群落の改変の程度は小さかった。

事業の実施に当たっては、計画地南側及び西側の外周に生育するクロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全した。注目される植物のタンキリマメの生育箇所は、計画地南側のクロマツ植林の林縁部であり、事業実施後も生育が確認された。また、既設の緑地と合わせて13,278m²の範囲に芝生のほか高木、中木、低木を植栽する計画である。これにより、事業の実施により新たな植物相及び植物群落が創出される。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。

イ. 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、草地を主たる生息地とする鳥類のヒバリ、バツタ目、コウチュウ目、ハエ目等の昆虫類の生息地が改変された。ただし、事業の実施に当たっては、既設の緑地と合わせて13,278m²の範囲に地上部緑化を行う計画である。これにより、確認された鳥類、昆虫類等の動物相及び動物群集は維持され、生息地が創出される。なお、鳥類の注目される種は、計画地と隣接した葛西臨海公園内の植樹帯や草地、海岸等を主な生息環境としており、公園内は事業による改変はなかったことから、周辺を含めた動物相及び動物群集は維持され、計画地内に新たに創出される緑地についても生息地として利用が可能となる。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。

ウ. 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の動植物の生育・生息環境となる草地環境、土壌が改変されたが、事業の実施に当たっては、計画地南側及び西側の外周に生育するクロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全した。また、既設の緑地と合わせて13,278m²の範囲に芝生のほか高木、中木、低木を植栽する計画である。これにより、移動性の低い動物相及び動物群集(地上徘徊性の昆虫やクモ類等)の多様な動植物の生育・生息環境が創出される。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。

エ. 生態系の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の草地環境、土壌が改変され、一部の既存樹木が伐採され、生態系を構成する陸上植物、陸上動物が相互に係わる生育・生息環境が改変された。ただし、事業の実施に当たっては、計画地南側及び西側の外周に生育するクロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全した。また、既設の緑地と合わせて13,278m²の範囲に芝生のほか高木、中木、低木を植栽する計画である。これにより、多様な生態系が創出されると考える。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。